

令和7年4月30日 産業福祉常任委員会所管事務調査視察（結果）

テーマ「高齢者福祉施設の将来像について」

出席者：伊藤委員長、三浦副委員長、鵜野委員、久保委員、小峯議長、按田局長（6名）

11時00分～ 特別養護老人ホーム旭寿園

相手方	園長	安念 昌典 氏
	次長	渡辺 正人 氏

厨房業務を委託したことによる食事風景の見学と課題等の聴き取り

14時00分～ 増毛町明和園

相手方	増毛町長	堀 雅志 氏（挨拶後退席）
	議会事務局長	川上 輝久 氏
	福祉厚生課長	佐藤 仁則 氏
	明和園施設長	大文字 司 氏
	〃 副施設長	佐藤 幸喜 氏
	〃 〃	山吹 裕治 氏

次第（増毛町議会事務局作成）のとおり

説明 明和園 副施設長 佐藤氏

事前に送付した質問事項により改築概要により説明（別冊資料）

〔質 疑〕

（鵜野）特養、養護の職員数は何名か。また、入所者の定数はどのような考え方からなのか。職員の養成等を行っているのか。

（回答）特養は32人中17人が介護職員、養護は20人中13人が介護職員であり、令和6年4月から社会福祉協議会へ指定管理したことから明和園の施設長、副施設長ら一部の職員を除き社協職員へ身分が移管された。（指定管理前は町の会計年度任用職員）

定数は介護職員の人数から決めたものであり、介護職員が集まらない状況が続いたため職員が対応できる人数とした。介護職員の養成までは至っていないのが実情である。

（久保）増毛町内にはベッドのある病院がないとのことだが、看取りはこの施設でも可能なのか。

（回答）看取りは行っていないが今後の課題としてはある。留萌記念病院と契約をしており、医師の往診に対応してもらっている。費用は年間で780万円。

（久保）将来的な高齢者人口の推移等などは考慮していないのか。

（回答）推計値はあるが、介護職員の数を見越して入所定員を設定した。

（鵜野）当初から民間（社協）に運営を委託することを想定していたのか。

（回答）当初は想定していなかったが、将来的に費用（指定管理料）が増加していくことが懸念さ

れ、社協にお願いすることとなった。

(伊藤) 現在の待機者は。

(回答) 特養で 10 人程度、養護でかなり待機しており需要に追い付いてない。

(伊藤) これまでに 9 回の懇話会から建設に至るまで苦労もあったと思うが、議会からの意見等は無かったのか。

(回答) いろいろあったが老朽化の問題や、入所者の健康など考え改築に至った。

(久保) 外国人の介護員はいるのか。

(回答) まだ入ってはいない。ハローワークに求人を出しているが、そうでもしないと人材確保ができない。

(三浦) 直営から社協への指定管理としたことで、職員に影響はあったのか。厨房業務はどのように行っているか。

(回答) 55 人いた職員のうち 2 人退職したが、それ以外は全員社協へ身分移管した。報酬や待遇は変わらない。厨房業務は社協職員 6 人（5 月から 1 人採用）で自前により行っている。

(小峯) 人件費は歳出の中に含まれているのか。

(回答) 含まれている。

(久保) 合併したことによる課題はあるか。

(回答) 特にない。

(久保) 養護と特養の交流機会はあるのか。

(回答) 年に数回の行事ではあるが、ほとんどない。

途中施設内見学を行い、16 時 00 分に終了

●その他の聴き取り内容

- ・入所者の出身内訳は。

→概ね 9 割が増毛町出身者である。

- ・建設費用の補助金について

→国からの補助メニューがあまりない。限られた補助金しか活用できなく大半が起債となり、来年より償還が始まり財政的にも厳しくなる。